

目標達成計画

事業所： グループホーム福寿草

作成日： 平成23年9月12日

市町村受理日：平成23年9月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	ホームとしての基本理念はあるが職員間で共有できておらず、実践にはつながっていない。	スタッフが共通の理念の元介護業務に当たる。	基本理念を基にしたユニット独自の具体的な理念をユニットの全職員が参加し作成する。この事によりスタッフ全体の介護に対する方向性を共通のものにしていく。	1年
2	2	入居者と地域のつながりの機会がほとんど持っていない。	町内会の行事に参加する。	盆踊りなどの地域の行事の開催情報の収集を行う。日程に合わせたシフトの調整。近くの学校などとの交流の機会を持てるよう挨拶に伺う等。	1年
3	26	実践の中で介護計画が形骸化してしまっている。計画の策定段階における会議の位置づけが薄い。会議内での職員個々の意見やアイデア等が乏しい。	全員が介護計画の作成の過程について理解、周知し、携わる事が出来るようにする。認知症高齢者に対する介護方法の理解を更に深める。	事業所全体の勉強会の開催や外部研修会の参加により様々な知識の収集に努める。会議に置いては必ず介護計画の内容について検討する事とする。特定の入居者の担当につかせ、具体的な課題を設定する事で意見やアイデアの気付きに結び付けたりモニタリングを行わせる。	半年
4	35	火災を含めた災害に対する対策についての職員間の話し合いがなされていない。管理者からの投げかけもなく、現場のスタッフからの疑問の声も上がらない。	火災を始めとした想定される災害全てに対して具体的な対応策の策定と共に全スタッフが周知し、その通り行動できるようにする。	毎月1回のユニット毎の避難訓練（又は防災訓練）を行う。避難方法をマニュアル化し形式的にわかりやすく作成し直す。	1年
5	34	急変や事故に備え、スタッフ個々の観察力や異常に対して的確に対応できる能力、知識が乏しい。	緊急時に必要な事柄がどのスタッフも周知できるようにする。	事ある毎にリーダー等から振り返りを行い、全スタッフが共有する。通院等の機会になるべく多くのスタッフに経験してもらい医療機関との連携の仕方を理解してもらおう。健康上の観察のポイントを定める。	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。